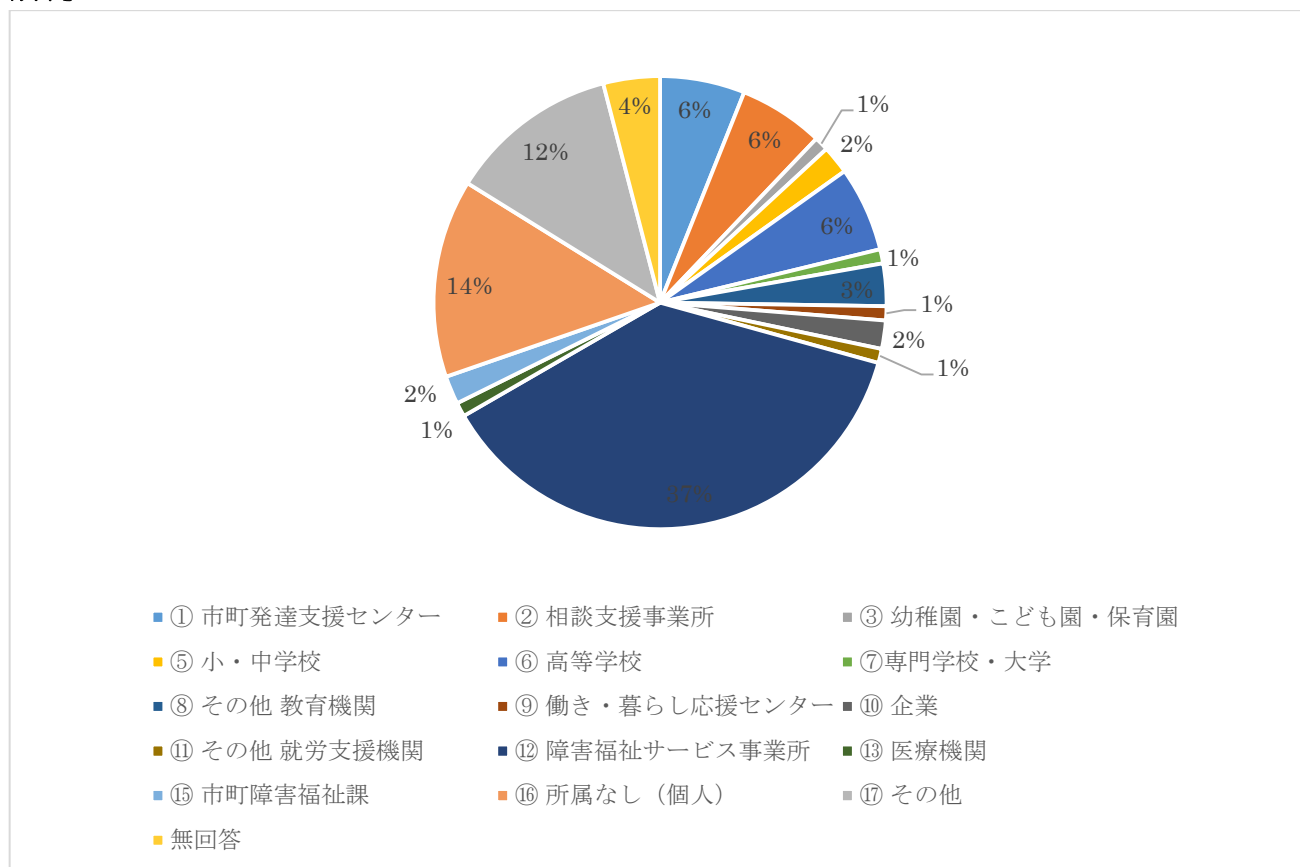


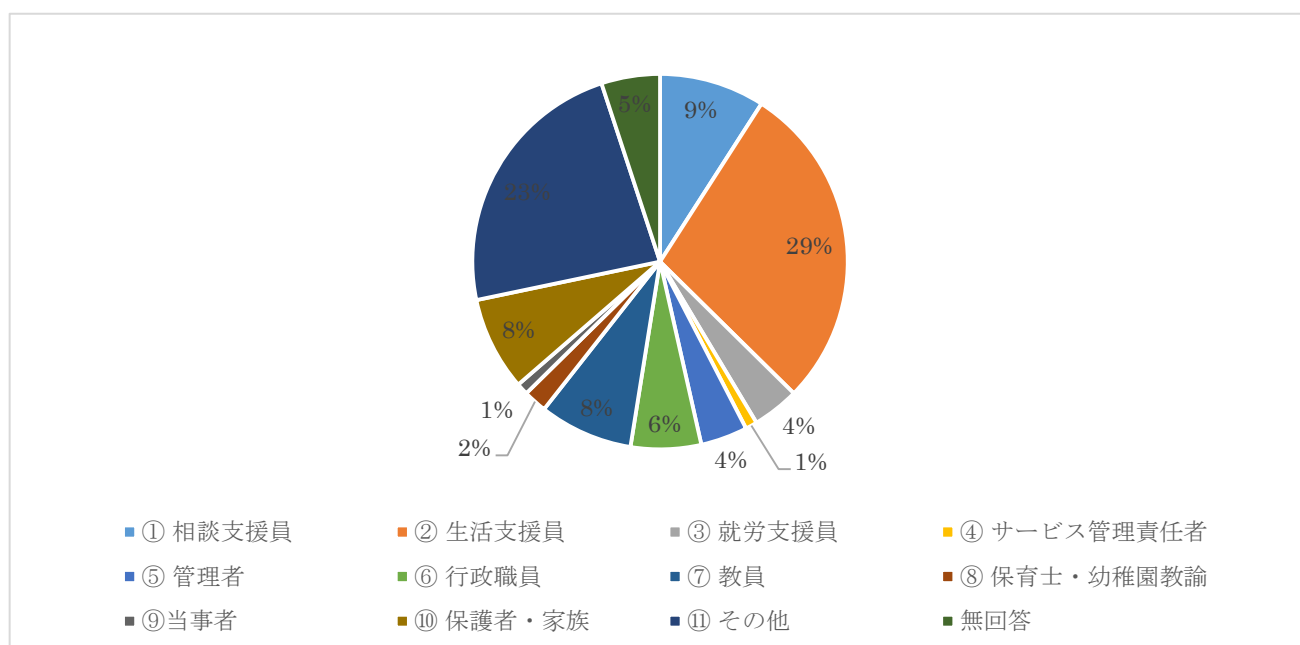
平成 29 年度 滋賀県発達障害者支援センター 第 1 回公開講座アンケート集計

出席者数：113 名 アンケート回収枚数：99 枚

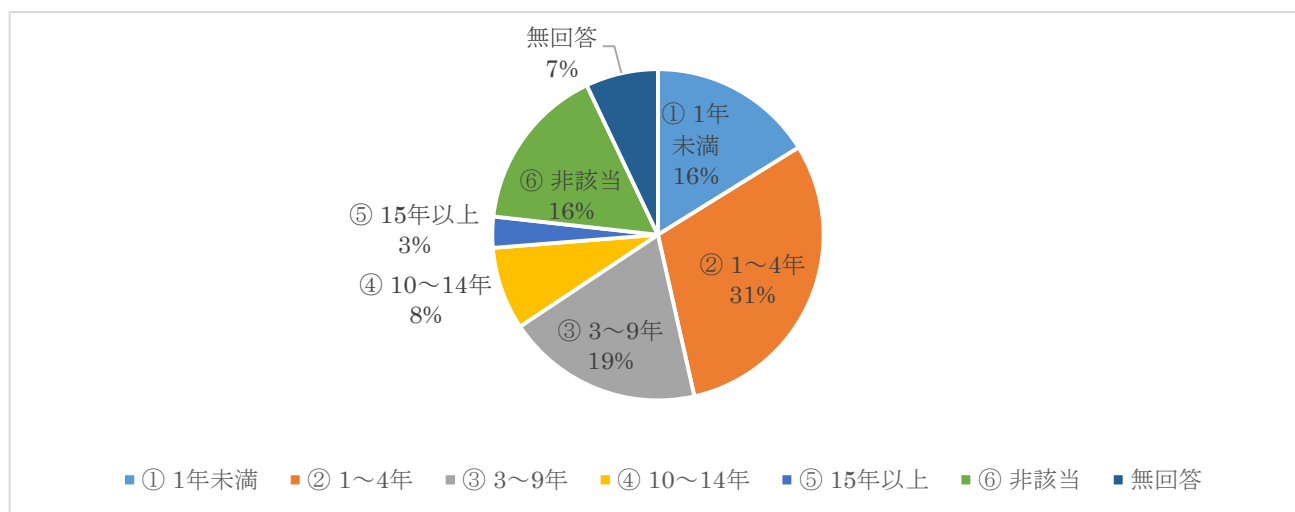
所属について



職種について

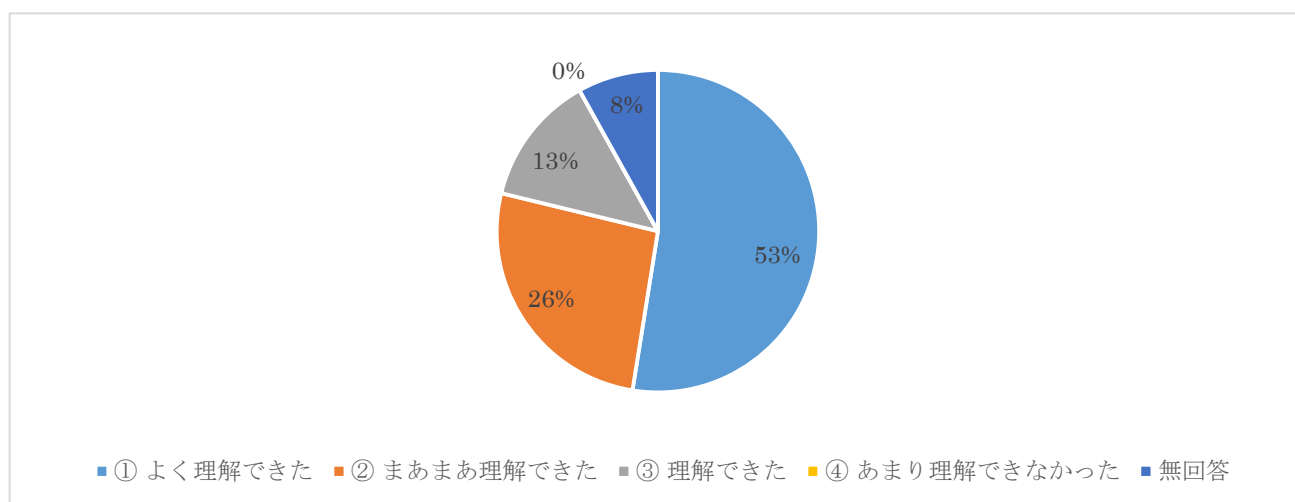


支援経験年数について

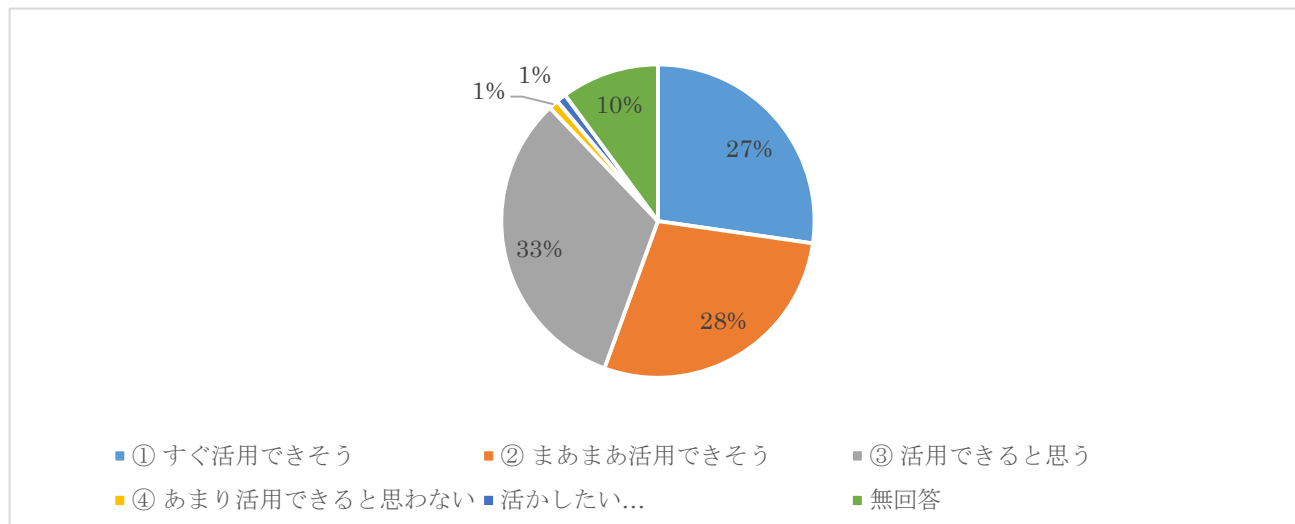


本日の講演会について

理解度



参考度



その他ご感想など ※アンケートの自由記述から抜粋し、個人が特定されないような形で要約させていただきました。

【TEACCHプログラム、構造化について】

- TEACCHプログラムや自閉症（発達障害）の支援を子どもたちに伝えることの大切さを感じた。
- 今、仕事で支援している事（カードや写真等を見せる等）の理由や意味が改めてよくわかりました。
- 伝わる手だてをしっかりと考えていきたいです。
- 講演会では、構造化することの大切さを改めて実感することができました。
- 具体的な構造化のモデル提示があり、わかりやすく実践できそうなものがあり、参考になりました。

【切れ目のない支援について】

- どうしても「今」の課題に目が向いてしまいましたが、自分が今、その方の人生の中のどの部分に関わっているのかということをしつくりと考え、先をしっかりと見据えた支援を提供できるよう意識し続けていきたいです。
- 発達年齢、時期に合わせた支援があるんだなと思いました。

【連携について】

- 環境、地域、家族の密接な関係により、自閉症の人が暮らしやすくなることがよくわかりました。

【意思決定について】

- 普段の関わりの中で、子どもが意思決定する場をほとんど持っていなかったり、誤学習につながってしまうことをしていると反省しました。今後、意識して意思決定の機会を増やしていこうと思いました。

【合理的配慮について】

- 合理的配慮という言葉の意味を今一度考え、支援につなげていけたらと思います。

【子どもの教育について】

- いずれ大人になる子どもを育てる（支援できる大人に育てる）ことの大切さに同感しました。
- “子どもたちが体感して、自閉症のことを知るることの大切さ、子どもたちの“柔軟性”がもたらす効果を感じました。

【その他】

- このお仕事をする上でのやりがいを感じました。
- 今、関わっている人々との向き合いや考え方に、新しい価値と生み出せることができました。
- 具体的な話をたくさんきけて、たのしく学ぶことができました。ありがとうございました。
- 自分の視野が広がりました。ありがとうございました。
- できることから支援に活用していきたいと思いました。
- 成功体験の積み重ねが就労意欲につながる事を学びました。